

吉福さんの言葉

82-100

向後善之

【その八十二】自分の中にもヒットラーは十分に存在する

- ナチスによるユダヤ人の大量虐殺も、オウム真理教によるふたつのサリン事件も、連合赤軍による集団リンチ事件も、遠い世界の話で、こうした事件の首謀者達が異常人格であるのではなく、激しいたまらない怯えに駆たてられた人達
- 怯えが妄想的なレベルにまで強くなると、敵を排除しようとしはじめる

【その八十三】 集合的自我 には、影を追放する傾向が ある

- 空気は、集合的自我を反映した雰囲気
- 対等性・多様性が失われると、集団の中の主流の意見が絶対化していくと、少数意見は無視され流ようになっていく

【その八十四】 カルトは、 ほぼ全てのサークルに存在 する

- 自我は、「こうあるべき」というルールを作ります。自我は、ルールに許容されない情動を抑圧しがち
- 暴力的カルトは、自分たちと価値観の異なるグループを徹底的に攻撃する・・・バッシング、いじめ、、ハラメント、こきおろし、情報操作、圧力、実際の暴力的行為など
- ママ友サークルにも、趣味のグループにも、会社にも、会社の共同体でもある業界にも、正当にも、宗教団体にも、そして国家にも、あらゆるサークルにカルト化の可能性がある

【その八十五】地獄草紙に描かれていることは、今世界で起きていることそのものだ

- 地獄草紙とは、六道輪廻の苦しみに満ちた世界を描いた絵巻
- 六道とは、天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道を示す；天道は天人の世界で、人間道は人間の世界、修羅道は阿修羅の住む世界、畜生道は牛馬のような畜生の世界、餓鬼道は、餓えと乾きに苦しめられる世界、地獄道は、罪人が罪を償わさせられる地獄
- 例えば、天道はカリフォルニア、餓鬼道はソマリア

【その八十六】気づいた人は、いちばん最初に身近な人から罰せられる

- 新しい価値観や世界観は、それが結果的に正しかろうが正しくなかろうが、最初のうちは批判されるものです。
- 革新的なことは、それまでの価値体系をぶちこわしてしまうかもしれないですし、大切な「既得権益」を無意味なものにするかもしれません。そして、身近な人達ほどその影響を強く受けます。

【その八十七】今、メディアが行なっていることは、ヒューマニズムと正義感の下の 奴隷制度

- 現代のメディアの行っていることは、ヒューマニズムの名の下に世論をコントロールしている要素があります。
- 視聴率が上がれば、部数が伸びればいいのです。大きく報道されればされるほど、反論は難しくなっていきます。
- 報道による特定の個人・団体に対するバッシングがあります。不祥事を起こした人ないし組織を、これでもかというぐらい非難することが頻繁に起こり、時には、バッシングされた側に自殺者が出ることもあります。

【その八十八】 新たな遠野物語を作る

- 311の直後、被災地の方々にどのようなサポートができるのかというお話を伺ったとき、「押しつけ的な自己満足的なサポートをすべきではない」ということを、吉福さんは何度か言われていました。あくまで、被災地の人たちのプロセスに沿った長期的なサポートが必要だろうとのことでした。

【その八十九】 もっと、悲しむこと

- 吉福さんの「もっと、悲しむこと」という言葉は、しっかりと喪に服する時間を持つということと、「悲しむ」という感情を比喩的に使って、「もっと、被災者の視点に立つ」という提案なのでしょう。

【その九十】母にできる事は妥当性のある不安を抱くこと

- 妥当性のある不安とは、過剰でもなく過少でもない静かな不安です。
- 過剰な介入も、過少な介入も、不安そのものから目をそらしているのですが、妥当性のある不安は、静かに見つめることができます。

【その九十一】日本の場合は、脆弱な自我が雪崩現象を起こす場合がある

- 日本は、個人的な自我は弱いと言えます。そのかわり、その脆弱さ故に、「本来は」他者に対し繊細で、相手を傷つけないようにという意識が働くと言えるでしょう。
- しかし、そうした相互援助的な雰囲気は、グループ自我が利己的な欲求の影響を受け始めると、相互依存的な心理にとってかわられ、やがて侵略的・暴力的な傾向を示し始めることさえあります。

【その九十二】 不安にどう反応するかが問題

- 不安にかられた衝動的な行動は、人を傷つけます。
- 情報が少ない中では、それぞれの人達が自分自身で考え行動して行くしかない

【その九十三】 僕は、脱原発原理主義だ

- 吉福さんは、これからの世界は、原子力に頼らない社会にすべきだと考えていました。
- 吉福さんは、これからの世界は、原子力に頼らない社会にすべきだと考えていました。

【その九十四】 資本主義は、奴隷を必要とする

- 資本主義は、大多数の安い労働力が前提で成り立ちます。
- 消費する側は発展途上国で生産する側の100倍程度の日給をもらっているわけです。つまり、自分たちの100分の1の給料で働いている多数の人たちがいるからこそ、資本主義が成立しているとも言えます。

【その九十五】人は、人であるという 一点でのみ平等なのだ

- 人は、不平等の中で生きています。知的能力も不平等、身体能力も不平等、容姿も不平等、生まれ育った環境も不平等です。
- 完全な平等は不可能なのです。
- 平等は求めるが、自分は少しでも優位な立場にありたいと望む訳です。言わば、今の社会は巨大なダブルバインドの中にあるのかもしれない。

【その九十六】ヒューマニズムは、人間の中の自然な衝動や欲求を抑制するもの

- ヒューマニズムとは、命ほど大切なものはないという考え方、つまり生命至上主義です。
- しかし、過度なヒューマニズムは、逆に人を抑圧するようになります。
- 吉福さんは、「ヒューマニズム」そのものを否定しているのではなく、「ヒューマニズム」の名の下になされる過剰な抑圧の怖さについて語っていた？

【その九十七】資本主義の危機を救う 最も安易な方法が戦争だ

- 吉福さんによれば、資本主義は、「資源が無限にあり人口が永遠に増えていかなければなりたたないシステム」です。
- 資本主義の危機を救う最も安直な方法が戦争です。

【その九十八】 軍事力を背景にしない外交は存在しない

- 吉福さんは、「暴力と富が国の発言力」と言っていました。
- 暴力と富は、格差を生みます。そして、格差があり、安い労働力がなければ、成り立たない世界になっています。勝ち組となるためには、強い軍事力と経済力が必要です。
- あるいは、「軍事力を背景にしない外交」や「暴力と富に頼らない発言力」を、これから我々は考えていかなければならないということを吉福さんは言おうとしていたのかもしれませんが。

【その九十九】 貧しい国になりましょう

- 「貧しい国」というのは、吉福さんの独特な言い回しで、文字通り「貧しい」ということではないのでしょうか。例えば江戸時代に戻るということではなく、少なくとも、もっと上、もっと上といった思考をやめるということかとも思います。
- 「貧しい国になってもかまわないという覚悟がなければ、持続可能な社会など実現するわけがない」というのが、吉福さんの言いたかったことなのかもしれません。

【その百】 伝わってますかね？

無料オンラインセミナーのお知らせ

- 原則毎週金曜日20時から、無料オンラインセミナー「酔いどれカウンセリングセミナー」を行っています。どなたでも参加できます。セラピー、カウンセリング、臨床心理学などについて、あれこれ語ります。
- イベントの案内は、こちらから↓
https://www.facebook.com/therapvillage/events/?ref=page_internal
- 「酔いどれカウンセリングセミナー」の過去の動画は、こちら。You Tube チャンネル 向後善之
<https://www.youtube.com/channel/UC4FOmjZ4AdEnc96AxjtRvNA>

無料オンラインセミナーは、
こちらからもアクセスでき
ます。

